

平成 28 年度札幌市アイヌ施策推進計画に係る検証評価（案）

平成 30 年 3 月  
札幌市アイヌ施策推進委員会

札幌市のアイヌ施策の推進状況について、平成 28 年度札幌市アイヌ施策年次報告書を基に、札幌市アイヌ施策推進計画の施策目標ごとに以下のとおり、検証評価する。

1 施策目標：市民理解の促進

～ 伝統文化の啓発活動の推進、教育等による市民理解の促進

<28 年度事業の進捗>

○市民を対象とした手芸・工芸・エコツアー等のアイヌ文化体験講座の開講（17 回、参加者 205 名）、アイヌ文化交流センターにおいてアイヌミュージック・古式舞踊・ムックリ・刺繍等製作体験・昔遊び等のイベントの開催（6 回、参加者 1,628 名）、アイヌ民族古式舞踊（輪踊り）の披露（1 回、参加者 69 名）、小中高校生団体体験プログラム（64 校、参加者 4,263 名）を実施した。また、平成 28 年度から、小中高校生団体出前体験プログラム（9 校、参加者 747 名）の提供を開始し、子どもから大人まで幅広くアイヌ伝統文化を体験する機会を設けることができた。

○公共空間を利用した情報発信では、さっぽろ夏まつり「ふるさと応援 PR ステージ」におけるアイヌ文化交流センターの紹介やアイヌミュージックの披露、さっぽろ雪まつり「チ・カ・ホイベント」におけるアイヌ伝統文化体験（トンコリ演奏体験・ブレスレット制作体験等）・工芸品販売を行った。平成 27 年度に引き続き、アイヌモニュメントタペストリーを札幌駅前通地下歩行空間（チ・カ・ホ）、JR タワー1 階西コンコース及び札幌市役所本庁舎 1 階に掲出したほか、新規事業として、市民参加によるアイヌアートモニュメントの制作を行い中央区民センターにアイヌ文様大型タペストリーを設置し、多数の市民がさまざまなアイヌ民族の伝統文化や歴史に触れる機会を提供することができた。

○平成 27 年度に引き続き、小学 4 年生及び※中学 2 年生の授業において副読本等を用いてアイヌ民族の歴史と現在について学習を行ったほか、札幌市職員や教職員を対象に各種研修等を行い、施策目標である「教育等による市民理解の促進」を進めることができた。（※委員会開催後、中学 2 年生に変更。）

○アイヌ文化を発信する空間の整備事業では、「アイヌ文化を発信する空間の整備検討事業」を具現化し、地下鉄南北線さっぽろ駅コンコース部を世界都市さっぽろの玄関口、アイヌ文化の導入口としてふさわしい空間とするため、外部有識者から聴取した意見を踏まえて、「地下鉄南北線さっぽろ駅コンコース部（アイヌ文化を発信する空間を含む）整備構想」を策定した。また、当該空間の具体的な整備内容について、外部有識者等から意見聴取を行い基本設計と展示計画案を作成した。

○関連事業として、札幌アジア冬季競技大会において、関係団体などと協力しながら、アイヌの伝統的手法による聖火の採火・カムイノミ分火式・開会式におけるアイヌ古式舞踊の披露等を実施し、国内外にアイヌの伝統文化を紹介することができた。

#### <委員からの意見>

- ・小中高校生団体体験プログラムについて、募集の結果、枠が残っている場合は、再募集をすべきである。
- ・小中高校生団体出前体験プログラムについて、参加校数が増えるにつれて、使用道具にかかる費用も増加しているため、入替え費用について実態に則し計上すべきである。
- ・市民参加型によるアイヌアートモニュメントについて、限られた期間の中で良い作品を制作するためには、参加者の募集は、過去に刺しゅうの経験のある方を参加者として募集する等、工夫が必要である。
- ・副読本の配布・活用について、学校の要望を確認し授業のカリキュラムに沿った配布を行うなど、有効的に活用できるよう配慮が必要である。
- ・札幌市教育センター専門研修について、先住民族とは何なのか、なぜアイヌに施策を実施しなければいけないのか等を研修の内容として取り上げていただきたい。
- ・札幌市職員採用試験について、アイヌや北海道の歴史問題を採用することについて検討していただきたい。
- ・関連事業である札幌芸術の森美術館で開催の展覧会について、PRを充実させるべき。

## 2 施策目標：伝統文化の保存・継承・振興

～アイヌ民族の歴史を尊重する施策の推進、伝統文化活動の推進

### <28年度事業の進捗>

○アイヌ文化交流センターでは、伝統家屋や生活民具の継続展示や伝統文化活動を披露するイベント等を開催した。同センターの来館者は51,165人（平成27年度50,270人）、展示室の観覧者は19,754人（平成27年度19,139人）であり、来館者・展示室の観覧者ともに増え、施策目標である「伝統文化の保存・継承・振興」を推進することができたと認められる。

○アイヌの伝統的生活空間再生事業（イオル再生事業）では、清田区内の市有地において、アイヌ民族に関係の深い樹木や植物を栽培・育成管理したほか、体験講座を開催した（民具づくり・伝統料理の調理と試食・子ども遊び：開催回数6回、参加者総数105名）。また、平成24年度から平成26年度にかけて実施した明治初期のアイヌの生活や文化の聴き取り調査の結果について、札幌市ホームページで公開し、施策目標である「伝統文化の保存・継承・振興」を推進することができたと認められる。

### <委員からの意見>

- ・アイヌ文化交流センター自然の里について、アイヌの物語や施設の利用法をわかりやすく表示・解説し、学習しやすい空間になるよう工夫してほしい。
- ・札幌地域イオル事業について、他の地域で実施しているような土地や風土に合ったイオル事業を札幌でも検討すべきである。

## 3 施策目標：生活関連施策の推進 ～産業振興等の推進、生活環境等の整備

### <28年度事業の進捗>

○さっぽろ雪まつり期間中に開催された札幌駅前通地下歩行空間（チ・カ・ホ）イベントにおいて、民芸品の展示販売スペースでの試行販売を実施し、コーナー全体で13,058人が来場した。

○教育・就職・住宅・医療介護等の相談に対応する生活相談員2名・教育相談員1名を配置し、28年度は2,182件の利用があったほか、アイヌ民族の児童・生徒に対する学習支援として、夏休み、冬休み期間中に、教育関係者やボランティア等による学習会を開催した結果、延べ64名の参加を得るなど、計画に沿った取組みが行われたと認められる。

<委員からの意見>

- ・民芸品、工芸品の販売について、場所の設置・機会の増加を図り、そのPRについてもさらに充実させるべきである。また、常設店舗の検討を至急進めるべきである。
- ・常設店舗を設置する場合、北海道の中心都市として北海道全体に配慮した店舗にすべきである。
- ・住宅新築資金等の貸付について、市中金利を踏まえた制度にしていただきたい。
- ・アイヌ伝統文化活動を継承する専門的な講師の育成や職業としての地位を確立できるように検討していただきたい。

4 今後について

委員からの各個別意見について適切に検討することを求める。